

事務屋の見た核データ

鈴木 猛(原研)

41年頃だつたと思うが管理部にいた時たまたま規程集を広げていたらシグマ委員会という文字が目に入つて来た。そのときは奇妙な委員会もあるものだなと思つていたがはからずもそのシグマ委員会の世話をする羽目になつたのだから奇縁というべきであろう。尤も原研に勤めている以上あり得ることなのでそう不思議がる事でもないが。研究部に移つて間もなく、百田部長にシグマ委員会の委員になつて予算関係を担当してくれと言われ簡単に引受けたが、さて委員会に出て話を聞いて見るとさっぱり分からない。これでは研究と予算のつながりが掴めるのかどうか自信がなかつたが、その中少しは分かつて来、時々予算や組織についてしゃべれるようになった。委員会の予算の事で側面から多少なりともお手伝いできるようになつたので、委員の末席を汚した意味があつたわけであろうか。シグマ委員会の予算については関係者は以前から深い関心を持つている。予算要求も色々手をつくしているようであるが仲々ふえない状態がつづいている。

予算の作業は原研では所内、原子力局、大蔵省という三つのステップで進められる。各研究室からでた要求が各ステップで次第にしぼられて行く。項目が落ちることもあれば金額がへることもあり或いは他の要求とコミになつたりして、しぼられかたも各様である。一方評価の定まつたものは増えも減りもしない。又予算をとりやすくするため予算担当者が要求の形を研究者が考えていたものとは別のものに変えてしまい研究室側がとまどうことも起る。しかしそういうプロセスがあつてもやはり狙いのはつきりしているもの、計画が詰まつているものは最後まで残り予算がとれるチャンスが多いと思う。それにつけても所内や予算担当者の理解を深めるということが大切な事柄である。所内の理解が深まれば、局、大蔵の理解が深まり従来の認識が改まつてくることにつながる。その点シグマについてはどうであろうか。必ずしも十分な理解認識が浸透しているとは思えない。核データの業務内容が難かしい故もあるが研究者の説明が専門的すぎることも因をなしているのではないだろうか。私もこゝ2年ばかり色々予算担当者に説明してみた。元々知識があるわけではなから研究室から聞きかじつたり JNDC ニュースなど引つくり返して何んとかまとめて話をした。効果があつたかどうか分からないしマイナスになつているかも知れない。しかし厳密な説明よりも多少正確さは欠いてもくだけた説明の方が相手に与える印象が濃し、関心を持つてくれるものである。高踏に走らず、身近かなものにしておく事が肝要であると思う。

所内では最近シグマ委員会の活動が他の委員会に比べて活潑であるという評価が拡まりつゝある。又核データセンターの要求が大蔵まで持ちこめるようになった。環境は次第に好転しているからセンターの実現に向つて更に努力を続けるべきであろう。この場合核データの整備について今後の方針や体制をどうするか明らかにして置く必要がある。それについて私なりに気の付いた点があるの

でそれを述べてみたいと思う。或は認識の至らぬためのがはづれているかも知れないがそのときは御寛恕をお願いしたい。

(1) 核データセンターの実現については原研は勿論の事大学、メーカーから強い要望が行なわれている。しかし各団体がセンターに何を求めているかと言うことになる。夫々異なるイメージを持っているのではないだろうか。センターに対しては同床異夢であつてそれが実現してから運営が渋滞することになつては具合が悪いであろう。センターを運営するものと利用するものとの間を十分調整しておく必要があると思う。

(2) センターが実現すればサービスに重点を置いた体制が作られる。当初は多くの陳客は望めないからシグマ委員会の援助を受けなければならない。従つて初期においてはセンターとシグマが併立し、年を追つてシグマの仕事が漸次センターに移行することになる。この移行のスケジュールをどのように進めて行くか検討しておく必要がある。又シグマ委員会は規模が漸次縮小して行くことになるが、状況によつてはこのような機関を殊して新たな分野に取組ませる考え方も出てこよう。これからの点は予算要求の場合に明らかにすべきポイントである。

(3) センターの構想において今までは核データの作業の三つの部門即ち収集、評価、定数化の中、収集、評価に力点がおかれていたようであるが、定数化は、これが実用に接近しているものだけに何らか取扱う余地を見付けておかなければならないであろう。

(4) これは外回りのものの義務であるが、核データが分かりにくいから分かり易く説明しろといつても限度がある。

やはり理解するためには或る程度勉強の必要がある。

仕事を理解するためにはその仕事についての知識がなければならぬから、核データに接するものはその心掛けがいる。私も事ある毎にこの点を強調して少しはお役に立ちたいと思う。